

2022 事故防止・経験交流集会 実施報告

教育遭難対策委員長 伊東春正（かがりび山の会）

教育遭難対策委員会主催で実施した事故防止・経験交流集会を報告します。

(1) 日程：2022年11月5日（土） 10時～16時30分

(2) 場所：千葉市幕張勤労市民プラザ

(3) 参加者：10会から22名

（市川山の会、ふわくハイキングサークル、ちば山の会、茂原道標山の会、かがりび山の会、船橋勤労者山の会、岳人あびこ、東葛山の会、千葉こまくさハイキングクラブ、松戸山の会）

(4) 実施内容

① 事故報告

今年度の事故は11件とコロナ感染前の件数に戻っている。

転倒事故が6件と相変わらず多く、健脚者でも、疲れていなくても転倒事故は発生しており、注意力、集中力が転倒事故防止のキーであろうと思われる。

② 事例研究

八ヶ岳遭難事故（労山会員が凍死）を取り上げグループ・ディスカッション。

事例に対し、山行リーダーとして、メンバーとして、会としてそれぞれの立場でどうすべきだったのかを話し合った。

③ 「登山リーダーマニュアル（登山リーダーのなすべき仕事とポイント）」の紹介

ちば山の会で作成した資料を紹介した。

実施後のアンケートでは、リーダーの役割を的確にまとめており、大変参考になったとの感想が多く寄せられた。

④ インターネットで山行計画を共有できるシステム「コンパス」の紹介

会の山行管理ツールとして、コンパスがどこまで使用できるかを評価し報告した。

計画書に対する審査・承認ルートがない、同行者の緊急連絡先が共有できないなど、既に山行管理を確立している山岳会にとっては、あまり有用ではない評価結果であった。

⑤ 「山筋ゴーゴー体操（ストレッチ編）」の実技

トレーニング・ジムのインストラクターによる指導を受けた。

⑥ フリー・ディスカッション

3つのグループに分かれディスカッションを行った。

□ 事故防止の取組

対応は会ごとに温度差があるが、結局は山行計画書の作成・提出が重要であるとの結論となった。

□ クライミング、沢登りのレベルアップ方法

クライミングやバリエーションコースをやってみたいという希望が増えているが、各

会での指導者層が薄くなってきており、県連や全国連の講習会が期待されている。

□高齢者登山で注意すること、心がけていること

体力維持のために行っていること、健康面で努力・注意している点、登山について心掛けている点について話し合った。

(5)実施後の参加者の感想

- ・登山事故は67人に一人の割合ということは、自分が事故にあう可能性がかなり高いということになる。

登山における事故割合が交通事故の4倍のリスクであることはもっと知られても良い。

- ・事件事例研究で取り上げた労山事件事例は、今年の1月の遭難死亡例ということでリアルな状況に背筋が凍りました。

- ・「山筋ゴーゴー体操(ストレッチ編)」の実技は、専門家から解説を受けることができ、非常に参考になった。

- ・フリー・ディスカッションは、他会の取り組みの話が聞けて参考になった。

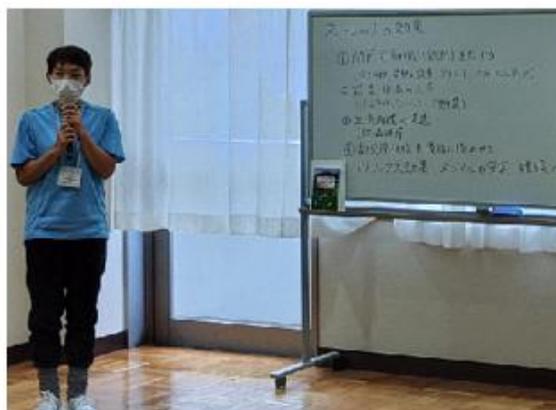
運営面に関して

- ・今回もテーマが盛りだくさんで、消化不良気味の印象をぬぐいきれません。

- ・事前の資料配布が直接参加者宛てではなかったため、資料が届いていない参加者がいた。などの意見が寄せられました。次回開催の参考とさせていただきます。



開会挨拶



山筋ゴーゴー体操(ストレッチ編)

以上